

APRENだより 第32号



(社)日本技術士会九州支部 長崎県技術士会
平成23年1月31日発行・責任者 犬東洋志

新しい年を迎えて(最近思うこと)

長崎県技術士会副会長 山口 和登(応用理学)

新年明けましておめでとうございます。今年の冬は特に寒い日が続きます。3~4ヶ月前までは観測史上最も熱い夏であったと騒がれていたのが嘘のようです。私の専門とする地質の世界では現在は間氷期で最も温暖化が進んだ時期にあたる為、時代的に地球温暖化等には関係なく温暖化になるのは当たり前との考えがあります。間氷期の後は氷河期となるわけですが、今年の冬の状況から氷河期に向い出したのかなとの錯覚も感じる季節感です。地球の歴史から見ると氷河期、間氷期も一瞬ですが、人間の歴史は更に一瞬です。つい30年位前までは冷害による作物の不作だと騒いでおり、最近は地球温暖化による異常気象や海面の上昇等と騒いでおりますが、地球からすれば地球の歴史に刻む暇もないような瞬時の出来事かもしれません。しかし、地球に住む我々人間は瞬時の出来事に一喜一憂しているのです。

ところで、人間の一喜一憂する出来事の内、安全、安心については特に身近で関心が高いようです。人間の一生は地球の歴史に比べれば瞬時だからといつても生きている内は安全・安心は無視できません。最近、「国民の安全安心」とか、「県民の安全安心」とかよく呼ばれているようですが、安全と安心は同じようで本質的には違うものと考えられます。私たちの技術の世界でも「安全率」はありますが、「安心率」というものはあまり聞いたことがありません。技術の世界では安全率をより正確に、より現実的に導き出そうとします。安全率を大きく取ろうとすれば経済的にも、実用的にも現実に沿わないようなものになるし、逆に小さく取ればリスクが高くなりすぎ、それこそ安心できない状況になります。安全は生命や身体、財産に関わるような危険・危害がない状態をいい、おのずと保たれる水準があり、上記のような安全率はその例である。安心は不安がなく、心安らかに生活できる状況をいい、個人の価値観により変わります。このために安全のように水準や定量的な評価は出来ず、安心率と言う様な言葉も一般的ではないわけです。

我々技術者は「安全率」をより現実的に導き出そうと努力してきましたし、これからもその努力は必要と思われます。そして今後はそれに加えて「安心率」と言うものにも配慮する必要があると思われます。安心率というものは聞いたことがないし、一般的でないと上述しましたが、あえて数値化すると1.0以上は安心が不安を上回り、1.0以下は不安の方が安心を上回る

と言うことになります。例えば、地すべり対策工事においてハード面の設計上の安全率は1.20以上としても対象住民が対策工事を施しても不安に感じたら安心率は1.0以下と言ことになります。安心率を1.0以上にするには対象住民の不安感を取り除く必要があり、このためには綿密なコミュニケーションが必要になります。これから技術者には安全率をより現実的に導き出す能力に加えて安心率を大きく導き出すコミュニケーション能力を向上させる必要が生じ、その能力もある技術者が技術士でもあると考えます。

新年の挨拶としては話が氷河期・地球温暖化から安全・安心そして安全率・安心率と最近思うことを取りとめもなく述べました。今年は地球環境同様に人間社会の先があまり見えませんが、大橋代表幹事が述べられているように日本技術士会の公益法人化、それに伴う組織の再編や長崎での行事も計画されているようです。長崎県技術士会といたしましても出来ることは具体的に協力し、また参加し、主催し、活動を活発化したいと思います。このためには会員各位のご協力をお願い致しますと共に今年の皆様のご健康とご健勝を祈念しましてご挨拶いたします。

新年を迎えて(平成22年の活動と23年の活動計画)

長崎地区代表幹事 大橋義美

新年明けましておめでとうございます。旧年中は技術士会の活動にご協力いただき有難うございました。本年も宜しくお願ひします。

さて、旧年は3月に支部で行われました「技術士論文発表会」において、長崎地区より2名の発表をいただき最優秀賞を受賞され、お目出度い年明けとなりました。

4月には県技術士会の総会と研修会を開催しました。しかし、その後研修会(CPD)を開催できなかつた点は心残りです。一方、長崎地盤研究会に対し長崎県技術士会として後援を行うこととし、2ヶ月毎に開催される研究会「ジオラボ」に会員の皆様の参加をいただいている。又、佐賀のNPO法人技術フォーラムにおいて開催される「技術懇話会」には例年協賛として講師を派遣し参加しています。

このように、福岡で開催されている支部主催のCPDのみでなく、地元でのCPDの機会を増して行きたいと取り組んでいますが、九州各県の活動に比べると残念ながらCPDの開催が少ないのも事実です。長崎ではNPO法人での取り組みを行っていないこと、企業内技術士が多く業務上から時間が取り難い等の理由

が考えられます。

しかし、本機関紙（APREN）や支部の「技術士だより 九州」には積極的に投稿していただき感謝申し上げます。

ところで、三菱グループのOB・現役技術士で年に3回程、懇親会的なものを開催されています。毎回7～8名の参加で話題提供、近況報告、意見交換、一杯飲みながらの懇親会を行っています。会場は三菱記念会館で金曜日の定時後に開催しています。

今後、このような会が企業グループのみでなく、長崎、県央、佐世保の各地区のグループで定期的に開催されるように拡がって行けばと考えています。このための組織作りも必要かと思います。

さて、本年ですが、(社)日本技術士会が公益法人化へ移行することも考えられます。移行した場合には九州支部は新組織へ再編成され役割も見直されることになり、各県の役割が期待されています。長崎地区は

(社)日本技術士会長崎支部へ名称変更となり規則も新たに制定されます。一方で、長崎県技術士会は、日本技術士会員と非会員で構成されていますが、これは引き続き現状の組織で長崎県での活動の中心になると思います。このように、日本技術士会において変革がなされますが、長崎県内の技術士が一体となって活動できる新しい組織、活動などについて皆様と協議して良い方向を決める年になるものと思います。

公益法人化に対する方向が明らかになった時点で詳細についてご連絡いたします。

本年の最大のイベントは、長崎のブリックホールで10月21(金)～22日(土)に開催される「第17回西日本技術士研究・業績発表大会」(末尾ポスター参照)です。地元として全面的に協力して行きますので、発表、参加、準備の手伝い等皆様のご協力を宜しくお願いします。大会の詳細については決定次第連絡します。

その他、例年同様技術士会の活動に対するご協力をお願いします。

色々と私の夢というか希望というかお願いを記述しましたが、これを実現するためにはまずは活動していただく人の問題があります。

率先して活動を行って貰う方が出てもらわなければ絵に描いた餅も同然です。

自薦・他薦で多くの皆様が名乗り出て貰いたく願っています。

昨年は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」で長崎も舞台になりましたが、若い人のエネルギーが国をも動かす力を持っています。技術士会も若い人々の熱情と協力が是非とも必要です。本年は卯年であり、ウサギのように飛び跳ねる元気な、若手技術士・補の皆さんのが中心になって夢のある技術士会像を考えただければと願っています。そして、県技術士会が増強され活発な会へとなることを祈念します。どうか、こ

の夢を実現できる年になることを祈っています。

技術士になって良かったというだけに終わらず、技術士として社会に向けた活動をして行くためにも、この技術士会の活動を活発化することが大切です。

そして、技術士間の交流が出来、そして、社会への発信が出来るような技術士会になることを願っています。

第17回西日本技術士研究・業績発表年次大会

高潮災害と水域の汚濁を考える



主催 (社)日本技術士会九州支部
共催 近畿支部・中国支部・四国支部
後援 九州地方整備局 長崎県 長崎市(予定)

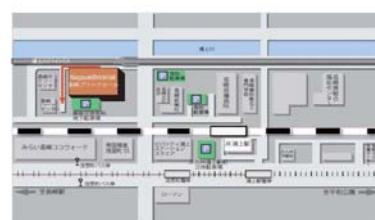
第17回西日本技術士研究・業績発表年次大会

プログラム

平成23年10月21日(金) 12:50 長崎駅前集合
見学会 三菱重工業長崎造船所史料館と香焼造船工場、グラバー園等
交流会 17:20～19:30(場所未定)
平成23年10月22日(土) 9:00～16:20 長崎市長崎ブリックホール(予定)
特別講演 「岩崎弥太郎と長崎造船所150年のあゆみ」(仮題)
講師: 三菱重工業㈱長崎造船所史料館・館長 横川 清氏
研究発表会 テーマ「高潮災害と水域の汚濁を考える」各支部毎に研究発表

主要地域からのアクセス

福岡市(JR博多駅)～JR長崎駅 JR特急(かもめ) 約2時間
福岡空港～JR博多駅まで 地下鉄で約7分
長崎空港(大村)～長崎市 空港バス 約50分
長崎ブリックホール: JR浦上駅(特急停車)から徒歩5分
空港バス茂里町バス停から徒歩3分
長崎ブリックホール案内図



お問い合わせは (社)日本技術士会九州支部
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル203
Tel: 092-432-4441 Fax: 092-432-4443
E-mail: pekyusu@nifty.com URL: http://www.pekyusu.com

「第17回西日本技術士研究・業績発表大会」ポスター

新春の夢

平原 宏志【建設：大栄開発（株）】

新しい年を迎えて私の夢（抱負というほどではないので夢としています）を二つほど述べてみたいと思います。第一の夢は、私は毎年何らかの資格を取ろうと思って一年間を過ごすようにしている。もう数年間もその目的は達成されていないが、しかし一年間何も目標にせず生きるよりはるかに意義があると考えている。技術士プロフェッショナル宣言の行動原則に「高度な専門技術者にふさわしい知識と能力を持ち、技術進歩に応じてたえずこれを向上させ、自らの技術に対して責任を持つ」ということが述べられている。この意味において、CPDは技術士として最も必要な行動であると思う。技術士とは、研究者と現場技術者の橋渡しとしての役割があり、それを行うためには自分の専門技術及びその周辺にある技術を理解しなければ、自分の技術を実行する側に伝えることはできないと思う。九州支部のCPDに出席すると、行政、専門技術、医療関係等あらゆる分野の講演が行われており、その中で個々の技術に適合する話を聞けることは楽しい限りである。それがいつか自分の仕事に反映されることもあると考えると、少しも無駄にはできない時間である。

第二の夢は、趣味である宝くじの高額当選である。今まで、一度も高額当選がないので買ひ方が悪いのだろうが、最近は購入の仕方が悪いのかと思っている。時間に例えると、1秒でも進んだり遅れたりした時計は一日の内正確な時間とは合致しないが、止まっている時計は一日の内2回は正確な時間を示すことがある。このことから、LOTTOの場合は決めた数字を数年間買っているが未だに高額当選に至っていない。これは、まだ私が未熟だから技術者人生を止めさせるわけにはいかないと、神様が当選させないのだろうと考えている。技術士は、待ちの姿勢ではなく進んで技術修得に励むのが本来の姿であれば、待ちの姿勢では宝くじも当たらないのかもしれない。今年も、技術士の本分たる専門技術や周辺技術の修得に励み、第一の夢の資格取得を目指すことになる。本当は宝くじが当たることも望みなのだけれど。何れにしても、この一年間二つの夢に向かって頑張って行きたい。

私は、毎年長崎県技術士会主催の研修会や懇親会を楽しみにしている。九州支部のCPDではあまり長崎県技術士会会員の皆さんとは会えないから、できれば研修会よりも懇親会の場で親交を深めて行きたい。これからも、長崎県技術士会会員の皆さんには大変お世話になると思いますので、よろしくお願ひ致します。

機関紙発行担当者より

新年明けましておめでとうございます。本年も4回発行予定の機関紙や10月に開催される「第17回西日本技術士研究・業績発表大会」の行事運営等々で会員の皆様にお願いすること多となるかと思いますが、ご協力宜しくお願ひします。また、日本技術士会九州支部で年4回発行しています「技術士だより・九州」についても支部からの要請により私より長崎地区会員の皆様に投稿のお願いをすることもあるかと思います。重ねてご協力宜しくお願ひします。なお、次回（4月発行）の「技術士だより・九州」は「賛助会員の声」を西日本菱重興産の安井広宣様、「地域だより」を松尾稔様にお願いしています。お楽しみに。

・長崎地盤研究会関連情報

2月4日（金）にジオラボ勉強会が長崎大学で開催され、今回、当会の松本直弥様が「はやぶさとあつき」をテーマで話題提供されますので、多くの皆様のご参加をお願いします。

長崎県技術士会と長崎地盤研究会のホームページのリンクについてのご提案があり、長崎県技術士会のホームページではすでにリンクされています。相互のホームページのさらなる活用をお願いしますとともに、色々なご意見・ご提案をお寄せいただきますよう、お願ひいたします。

・会費納入のお願い

当会の運営は支部からの助成金のほか、皆様の年会費（正会員3,000円、準会員1,000円）等で運営されています。4月からは気分新たに新年度を迎えることになりますが、会費納入について未納の方がございましたら重ねてご協力ををお願い致します。会費の振込先は以下の通りです。

<振込先>

十八銀行 桜町支店 普通預金 NO. 024599

長崎県技術士会 代表幹事 大橋 義美

<住 所>〒852-8064 長崎市北陽町39-21

TEL: 095-865-5200

会費納入等についてのお問い合わせは桐原または山口和登（長崎地研；TEL:0956-46-1005）までお願ひいたします。

大栄開発(株) 桐原 敏

〒857-1151 佐世保市日宇町2690番地

TEL: 0956-31-9358、FAX: 0956-32-2711

E-mail : s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp